【実施報告】2021.10.1~14

小金井市立本町小学校「家庭教育学級」

オンラインワークショップ&海の環境学習教材の展示

海からみえる 私たちのくらし

主催:小金井市立本町小学校 PTA文化委員「家庭教育学級」

制作・配信・展示制作:特非)海の環境教育 NPO bridge



◎概要

「海のプラスチックごみ問題」をテーマに、小学校の全児童と保護者を対象としたオンラインワークショップ&学内展示を実施した。新型コロナウイルス感染防止のため集合型の体験活動ができないなか、海から離れた地域の人たちに一方向の配信型オンラインワークショップで「自分ごと」として継続性のある海洋環境保全意識の形成を図れるかが、大きな課題だった。

そこで、参加者(児童)が撮影した写真を使用する、居住地域の自然や現状を紹介、地域を流れる川を媒介に海とのつながりを紹介するなどにより「自分ごと化」を図った。また、「海洋ゴミ問題の現状紹介」を一つの柱とする一方、生物の映像や親しみやすいイラストを用いて身近な海の生物の生態や、生物どうしのつながりなどを紹介(動画&展示)することにより、継続性が高いと言われる生物への共感に基づいた環境保全意識の形成を図ることをもう一つの柱に据えた。これらにより、内陸部に居住する参加者自身のライフスタイルの変換を目指し、2週間の動画配信と教材展示を行なった。

• テーマ:浜辺の漂着物と海洋プラスチックごみ

対象:東京都小金井市立本町小学校児童 548 名(自由参加)*期間中動画再生数:335 回

会場:児童自宅(視聴場所)/校内廊下・階段他(展示)

• 配信 & 展示期間: 2021 年 10 月 1 ~ 14 日 (2 週間)

• 使用教材:

【LAB to CLASS】海へ!水てき君の大冒険~森と海のつながり/餌の餌の餌は何?/海の生きものカード(「海の生きもの椅子取りゲーム」教材)

【その他の教材】海ごみ絵本『プラスチックの旅』(一般社団法人JEAN制作) *一般社団法人JEANは、海のごみ問題に取り組んでいる NGO です

・主な学習(紹介)テーマ:身近な浜辺と、遠い海・山(森)・街(人間生活)とのつながり/海の生物の多様な生態/海洋プラスチックゴミと自らの暮らしの関係

◎活動の様子

【配信動画】オンラインワークショプ『海からみえる私たちのくらし』:40分 https://youtu.be/ggX8tdYCWWg *概要版ショート動画(6分33秒)

構成:近海の海中映像(生物画像:イルカ・ウミガメ・イカ・タツノオトシゴ他) 浜辺の漂着物(生物:スカシカシパン・イカの軟骨・センコウガイ・クルミ他) 小金井市と海のつながり(多摩川の源流から河口の自然紹介) 多摩川河口の川ゴミの現状

海洋漂着ごみの現状(予測データなどを用いて海洋プラスチックゴミ問題を紹介) 海ごみになる町ごみの現状(小金井市の現状を児童の写真で紹介)

『プラスチックごみの旅』〜陸域での「海のプラごみ」発生源の具体例紹介 *クイズ:身近な海の生きものの生態クイズ&動画による「生きている姿」の紹介



浜辺で見つけるさまざまな生物のカケ ラ。生きている姿の映像等を紹介

動画提供:新江ノ島水族館









親しみのある「地域の川」の写真を事前に児童から募集して採用!

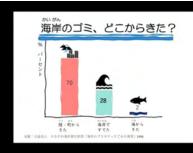


多摩川河口の生物の痕跡や実像を紹介



川岸の漂着物には、見 覚えのあるものも多い







漂着の仕組みと海のプラスチックごみの現状紹介



児童が事前に撮影した、小金 井市の「町のポイ捨てごみ」





プラスチック製品が海ごみになるまでを解説↑







【校内展示】

- ・海ごみ絵本『プラスチックの旅』一般社団法人JEAN制作
- ・『海へ!水てき君の大冒険~森と海のつながり』:水の循環
- ・多摩川マップ:小金井市と海のつながり
- ・『餌の餌の餌は何?』:海の食物連鎖とマイクロプラスチック
- ・海の生きものカード: 身近な海の生きもの紹介



←海ごみ絵本「プラスチックの旅」 (一部) 配信動画で紹介した解説イラストを展示。 動画で説明しきれなかった多様なゴミの発生 原因をじっくり探せるようにした。

森・川・町・海・雲〜水の循環

人や生物の利用を交えて、イラストカードで紹介。多摩川の写真や地図を合わせて展示することにより、身近な出来事として印象づけた。



中では、 中では 中では

→海の生きものカード 身近な生物の体の仕組みや生態を紹介

PARTY OF THE PROPERTY OF THE P

食べたことがあるものは? 実際にみたことがあるものは? 知っているようで知らないね

図書室の連動展示 関連図書の展示と貸し出し、授 業でも取り上げていただいた



餌の餌の餌は何?〜海の食物連鎖(一部) 海の生き物の命を支えているのも、植物。



◎主な工夫点

「一方向での動画配信オンラインワークショップ」という制約のなか、「自分ごと化」 「継続性のある環境保全意識の形成」を高めるために、以下のような工夫を行なった。

1)「自分ごと化」する試み

①児童(参加者)が撮影した写真の利用

配信動画作成前に児童から以下のテーマで写真を募集し、動画に入れることで児童及び保護者に「身近な問題」であることを印象付けるとともに、「共につくる」気持ちを誘発。

募集テーマ:海岸で見つけた不思議なもの/町中のポイ捨てゴミ/身近な川の風景

②「近隣の川」を主軸に、内陸部と海のつながりを説明

近隣を流れる川(野川/多摩川)を通して、自身の暮らしが海につながっていること、さらに「水の循環」という地球規模の環のなかに在る人間という視点を伝えるため、地域の風景だけでなく、上流・下流の自然と現状も写真や映像で紹介。

2) 「生物への共感」に基づく継続性のある環境保全意識の形成

①映像を多用し、生物のリアルな姿を紹介

ゴミ問題の現状紹介だけでなく、近隣の海にすむ生物、および地域とつながりが深い「多摩川河口部」に棲息する生物のリアルな姿を、海中映像や写真、水族館等の動画などで紹介。海の生きものの不思議さや魅力を伝え、"命への共感"を育む工夫をした。

②校内展示

動画配信に合わせて校内に「海洋学習教材(生物カード等)」を展示し、配信動画視聴への動機付けを行うとともに、海の自然へと興味を誘う工夫を凝らした。

◎ふりかえり/実施後の感想

■広範囲な対象者と「エコフォビア」への考慮

参加者(視聴対象者)が小学校1~6年生という幅があり、環境問題や海への知識、興味にも大きな違いがあるなか、より多くの子どもたちが楽しめ、また何か一つでも心に響くものが残るように、海中映像や展示による海洋生物の紹介などの工夫を行なった。

ゴミ問題に関しては、自然に対する共感や親愛(守りたいという気持ち)が芽生えていない参加者も多いことを踏まえ、上記の感情が生まれる前に深刻な環境問題を子どもたちに突きつけると未来への絶望感から環境問題から目を背けてしまう(エコフォビア)が起きる危険性を考慮して、プラスチックごみの漂着の仕組みを主に、環境への深刻な被害状況や詳細な問題については触れず、概要のみを伝えることとした。

結果、低学年を中心に「やや難しい・長い」との意見も聞かれたが、「各家庭での自由参加」による視聴という条件にも関わらず、視聴回数(アクセス数)は全校生徒の半数をゆうに超える延べ335回を数え、初回としては成功だったのではないか。1回の視聴で複数の子どもたちが観た家庭もあることから、かなりの在校生が視聴したと思われる。学校が作成・配布している『学級だより』でも「知恵と工夫を凝らし、子供たちのために新たな好奇心を育てる工夫」との評価をいただくことができた。

■学校の協力・連携、PTA 役員の主体的関わり

家庭での視聴を前提とした「動画配信」だったが、6年生のクラスでは「SGDs 関連授業」内で視聴。担当教諭より「環境問題や人権問題を自分の問題としてとらえ、自分たちにできることを考える学習」の「導入としてとても興味深い内容だった」との評価をいただいた。図書室でも関連図書の展示を行っていただき、図書の授業では「環境ブックトーク」なども実施していただいた。

今回のオンラインワークショップはPTA主催の行事であったが、これら授業への導入をはじめ、校内での展示、クラス担任の先生方が子どもたちに向けて話題提供を行ってくださるなど、学校側にも好意的な協力をいただけたことが視聴回数の高さに繋がったと思われる。

また PTA の方々が、写真の募集から展示のサポートまで積極的にご協力くださり、その熱意が参加者の増加に少なからず影響を与えたと思っている。校内の展示が配信動画の視聴にどの程度繋がったかは定かではないが、PTA 担当者による校内展示確認の巡回時には、子どもたちから「学校中が水族館になったみたい」「(展示を)まだよく見ていなからとらないで」などの声も聞かれたとの報告もいただき、展示を楽しんでくれている様子を窺い知ることができた。

■今後に向けて

映像の質のばらつきや構成の抑揚、展示との連動性など、まだまだ課題は多いが、予算の都合上映像制作においては素人の団体スタッフでほぼすべてを行なった「事前収録型の一方向動画配信オンラインワークショップ」としては、ある程度の成果が挙げられたのではないかと思われる。

また、このような形式で「内陸部の子どもたちに、海の自然を感じてもらいながら海洋プラスチックごみ問題を自分ごととして考える場を設ける」ことが可能であることへの確かな手応えを感じることができた。

今後の課題としては、主に以下の2つが挙げられる。

- ①学年や知識・関心の差により「初級・中級」などに分けた配信の検討。
- ②ベースとなる「川と海の自然、およびプラスチックごみ問題の紹介」に、「自分ごと化できる個別性」を効率的に組み合わせる方法を検討し、受益者(学校等)の負担額軽減。

上記の改善を図り、一つの「川」の流域を1ブロックと捉え、より多くの子どもたちに 「海ごみ問題のオンラインワークショップ」を提供できるような仕組みづくりを考えたい と思う。

◎参加者(児童・保護者)の感想

【アンケート総括】

◆児童

- ・クイズの答えを学校の廊下で探し、プラスチックが海にもたらす影響を知り生物に対する理解を深めていた。
- ・投稿した写真や本町小学校のことに触れてあったことで興味を持つことができた。

◆保護者

海に意図せぬ形でゴミが流入していることを知り、環境破壊について考えるきっかけとなった。

【PTA(主催者)ふりかえりより】

- ・提供された画像をただ見るだけなく、視聴者も素材を集めて参加することで興味を持つことができ、作った動画をオンラインで視聴するスタイルはとても良かった。
- ・夏休みの体験学習につなげるアイデアは、子どもたちへの環境への関わり方を学ぶいい機会になり、とても素晴らしい内容だった。
- ・オンラインと展示の両方を行うことで、子供たちがより興味を持った。特に展示物を教 室前の廊下や子供たちの目につくところにクイズ形式で展示したのは良かった。
- ・展示は、低学年の子にもわかりやすかった。子どもたちは本当に楽しそうで、学校が新しくなったみたいという声も聞かれた。クイズも楽しそうに考えていた。
- ・掲示物と映像視聴の双方を見る動機付けをした方がより理解は深まる。
- ・内容は、現在の環境問題についてわかりやすく説明されていて、子どもたちに海について考えてもらうきっかけができて嬉しい。
- ・総合学習にもつながって良かった。高学年の先生方の協力を得て、授業との結びつきをもっと広げても良かった。
- ・オンラインは時間の制約がなくなり、親子で体験できる家庭が増えると思う。
- ・視聴時間を自由に設定できるため、(日時指定のイベントには)なかなか参加できないご家庭でも参加しやすかった。
- ・対象範囲は妥当だったと思うが、1年生の娘は最後まで集中できなかったので、動画は少し短めがいい。
- ・動画は30分以内におさめられると良かった。

・映像に区切りを設けるなどして後日、視聴しやくするなどの工夫が必要。

【アンケート抜粋】

◆「SGDs 関連授業」(6年生)事後アンケートより

- ・これからは人工物をいっぱい使うのではなく、自然にやさしいものを使って生活してい きたい。
- ・海の生き物が自分で生きるためにはいろいろな特徴があった。ウニになぜ桜のような模様があるのかなどいろいろ疑問に思った。
- ・海の生き物も人間と同じように知恵を使って生きているんだなと思いました。
- ・海は町や川とも全てつながっていることを知って、ゴミを拾う活動だけでなく、生活に も気を付けていきたいと思いました。

◆児童

- ・海の生物の理解が深まった。
- ・プラスチックが生き物に与えている影響を知れた。
- ・海や川に色々なものが流れついていることが分かった。
- ・自分の撮った写真が使われていた。クイズ!廊下に答えを探しに行った。
- ・スカシカシパンがフワフワしてそうで可愛いかった。
- ・貝がらに星みたいなもようがついていた貝がらです。
- ・生き物の、可愛い♥すがた。
- ・自分たちが住んでいる小金井がでてきたところ。
- ・ゴミを川や道にポイ捨てしてはいけないと感じた。
- ・プラスチックのゴミだけで800万トンも出てるのにびっくりした。
- ・海の中にプラスティックゴミが流れていることが分かりました。
- ・海の泡が自然の状態によってできたものだった事。
- ・"やっぱり海は全てに繋がっているという事"
- ・浜辺のたくさんの生物。

◆保護者

- ・海のゴミが魚より多くなってしまうとのお話を聞いて危機感を抱きました。
- ・ゴミとして出したものが、なんらかの理由で川や海に流れてしまっていること。
- ・意図しないものでも、落としたり風で飛ばされたものもゴミとなって、川や海ではすご い量になっていることに驚きました。
- ・家庭で洗濯した時など、マイクロプラスチックが流出して海を汚していることを知り、 人間が自然破壊していることを再認識させられました。
- ・お話の進め方が単調かなという印象を受けました。
- ・自分が投稿した写真が映ったこと。
- ・川や海に落ちているゴミの種類や多さ。
- ・東京湾への距離感が短く感じた。

- ・"海の生き物の写真や、本町小のお友達が投稿した写真、クイズなどがあったので、見ていて面白かったし、話も分かりやすかった。
- ・"山に降った雨水が川になり海に流れる話から、マイクロプラスチックまでの話をよくこの時間でまとめたな~。そしてわかりやすい"という印象を受けた。"
- ・海のゴミの7割が地上でのゴミが流入していると知り、驚きました。
- ・海の生き物の生態。
- ・川に捨てられたゴミが海にまで流れ着くことにショックを受けていたようです。
- ・海の泡が自然の状態によってできたものだった事。
- ・上の原公園など身近な場所が出てきた時に盛り上がっていました。
- ・内容は面白かったのですが、子供には少し長くて、途中で飽きてしまい、一回席を外してしまいました。でも、最後の海の映像が興味深かったようで、楽しそうにみていました。ごみをなるべく出さないよう、暮らしを変えていきたいと思いました。
- ・プラスチックゴミを減らしていく取り組みは大切だと、改めて実感しました。
- ・子供なので、途中で飽きてしまうところもありましたが、本町小向けに問いかけがあったり、クイズがあって子供の興味をひいていました。
- ・全部がつながっていることが分かりました。
- ・内容がいまいちでした。来年は従来の催し物をオンラインで開催するとかにしたほうが 良いとおもいます。値段に合ってないとおもいます。
- ・3年生は楽しく見れましたが一年生には少し難しいテーマだったようです。
- ・見始めたらあっという間に最後まで見てました。途中クイズなどもあり親子で盛り上がる事も出来ました。

以上。

◆協力:一般社団法人 JEAN・城ヶ崎インディーズ 矢北拓也・中野陽子・NPO ディスカバーブルー 寺西聡子・小金井市立本町小学校 PTA・小金井市立本町小学校のみなさん

新江ノ島水族館・東京都水道局・全国川ごみネットワーク・築地すし好・葛西臨海水族園公式 チャンネル・北海道新聞 動画ニュース・Japan Marine Club 海想記・沖縄美ら海水族館・いば らぎ TV・・サンシャイン水族館・男鹿水族館 GAO・Sankei News・野鳥動画図鑑(順不同)